

首都圏人材を広島の企業に 人材マッチング成果着々 叡啓大が中間報告会

叡啓大(広島市中区)は15日、首都圏などの人材を客員研究員として



受け入れ、広島県内の企業の経営課題の解決を図る「ひろしまバリュー

参加企業の経営者と客員研究員が、これまでの取り組みや今後の展開を説明した中間報告会

シフトプログラム」の中間報告会を同大で開いた。

参加企業5社の経営者と研究員が取り組みを発表した。広島トヨペット(西区)で活動する大野祐子研究員は前職での経験を生かし、一部店舗で交流サイト(SNS)の定期的な投稿を始めたと報告。今年から全店舗に広

げる予定で、古谷英明社長は「実際に数字が伸び、営業活動になっている」と手応えを示した。

旅行業のトラベルボックス広島(西区)を担当する渥美雄一郎研究員は人工知能(AI)を使ったマーケティングや商品開発に加え、学生と連携して広島観光の魅力を広める考えを説明した。

5社は昨年10月から半年間、研究員1人を受け入れ、新規事業の創出や経営課題の解決などに取り組む。(榎本直樹)